

地産地消だけでは衰退

昔から都市の繁栄は、旅行の存在なしには考えられなかった。東海道・宿場町を考えてほしい。江戸時代の東海道の往来が宿場町の繁栄を支えていた。アジアに目を転じれば、シンガポールや香港はビジネスや観光による訪問客なしには現在の繁栄は考えられない。より古くはマラッカなどの都市も、交易の中継点として重要な役割を果たしてきた。

伊藤 元重 機構大教授 研究開発 理事 総務

では経済の活性化は生まれない。地産地消は重要ではあるが、それだけでは経済は閉塞状況に陥ってしまうのだ。とりわけ日本のように、人口減少と高齢化が急速に進む地域では、外の世界との関係を強化することなくしては、地域の衰退が進むばかりである。

仕事のついでに寄る旅行、会議やイベントでの訪問、短期留学、研修のための訪問など、さまざまな形で人々は旅行するものだ。こうしたあらゆる機会を捉えて訪問客を増やそうというのが観光戦略である。

がこの10年でアジア全域で8億人増えたという。この先の10年でさらに10億人増えるという予想もある。かつては貧しかったが、所得が増えて中間所得層になった人々。彼らは消費に食欲である。そうした消費の一つに海外旅行がある。

経済、特に地域経済を活性化する上で非常に有効な手法である。それだけでなく、日本の社会や文化に触れてもらうことで、草の根レベルでの良好な国際関係を構築することにつながる。日本の文化や社会への理解を深めてもらえば、日本の商品の輸出拡大にも貢献するはずだ。

観光が経済、地域を活性化

このような観点から観光について注目していく必要がある。より多くの観光客を引きつけることができる地域は、それだけ経済的にも文化的にも活性化する可能性が大きいのだ。もちろん、観光というのを狭く捉える必要はない。団体のツアーはもちろんのこと、個人や家族でゆっくりと来る旅行、

からの観光客が増えている。今年はずいぶん、1千万人の来訪者という長年の目標が達成できた。おかげでホテルや百貨店の業績は観光客のおかげで好転している。

アジアの国々が豊かになっていくことが観光客の数を急速に増やしている。年間所得5千ドル以上の人を中間所得層というが、その数がこの10年でアジア全域で8億人増えたという。この先の10年でさらに10億人増えるという予想もある。

とに人々や人が触れあうことから、全てが始まる。観光というのはそうしたいろいろな意味で、日本の経済や社会を活性化させ、アジアとの関係を強化する上で重要なことであるのだ。国も観光を重点分野に位置付けてさまざまな取り組みを始めている。静岡も地域としてどのような活動が必要なのか真剣に議論すべき時期に来ている。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。